



Interview




昭和53年に入校し、気付けば1番の古株になっていました。時代の移り変わりを目の当たりにし、声に出して思いを伝えていくことで、社会が少しずつ変化していくことを実感しました。最近では、「食品ロス」が大きな問題だと思います。多くの食品を輸入に頼る国なのに、大量に食品を捨てています。本当にもったいないし、貧しい国の人々を援助できると思いますよね？いつの時代も一人一人のちょっとした取り組みや意識が、地球規模で皆さんの生活に影響してくると思っています。皆さんも今一度、自分の生活スタイルを振り返ってみませんか？気付くことがあるかもしれませんよ。

土岐市生活学校代表 金山 富士子さん
かなやま ふじこ



生活学校では、社会の一員として広くたくさんの人とお付き合いができ、自分の人生が豊かになったと思います。社会に目を向け参加することで元気にもなれます。皆さんも私たちと一緒に活動しましょう！

丹羽 登志子さん
にわ としこ



例えば「マイバック持参」のような、生活の中でのちょっとしたことでも社会に貢献できる、そんなことを教えてくれた場です。活動を通して全く知らなかった環境問題のことなど、多くのことを知りました。友人に広めて、活動の輪を広げていきたいです。

山村 美千子さん
やまむら みちこ

活動紹介

- 1 廃食油回収**
1980年代、河川の汚染が深刻な問題となり、その原因の一つが天ぷら油でした。そのため全国に先駆け1983年から廃食油の回収に取り組んでいます。毎月第5水曜日が廃食油の回収日です。
- 2 牛乳パック回収**
リサイクルを目的に、1987年から始めました。市内のスーパー1社が店頭回収に協力してくれています。
- 3 水質調査**
生活排水が河川の汚染原因になっていることを知り、1988年から継続して河川の水質調査も行っています。現在では、夏休みの子どもたちも参加する行事として定着しました。
- 4 環境を学ぶ研修会**
毎年11月に環境について学ぶ日帰り学習会を開催しています。昨年は、実際に市内で集まった廃食油がどのようにリサイクルされるのかを学ぶため、リサイクル工場を見学しました。



会員募集中!

「市民のマナーは市民が育てよう！」
皆さん、私たちと一緒に生活学校で学び、考え、地域に貢献しませんか？

活動拠点の「はいて小屋」リユース商品などのショップもあります。ぜひ立ち寄ってくださいね！
📍 泉町久辰2-3

🗨️ 金山富士子さん (☎️4566)

これまでに紹介した活動以外に、高齢者の憩いの場としてのおしゃべりサロン、住民参加型で行う行政との対話集会、地域のにぎわいづくりを体験する地域散策学習会、放課後教室への出張講座など、地域に貢献する活動にも積極的に取り組んでいます。

今年度は「住み良い街づくり」環境問題を考える「をテーマに、地域温暖化防止活動、子どもを育てやすい環境づくり、中心市街地活性化運動などを行っています。また、フードドライブ（※家庭で未開封のまま残っている食料品を、食料確保が困難な団体や個人へ寄付する活動）も実施していきます。

地域を支える縁の下の力持ち



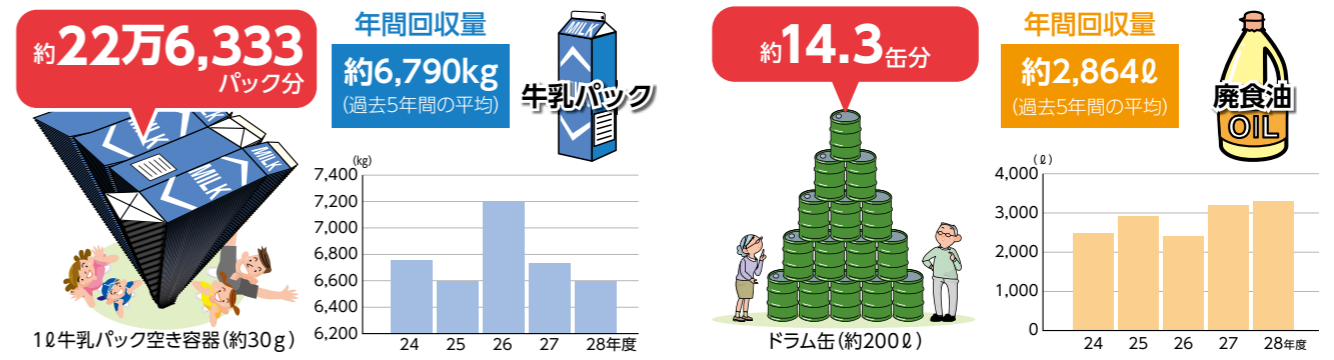
特集 土岐市生活学校

私たちの暮らしの中のさまざまな問題について考え、前向きに取り組み、地域を明るく豊かにすることを目指す市民グループ、土岐市生活学校。今回は、そんな地域を支える縁の下の力持ちである土岐市生活学校の活動を紹介します。

土岐市生活学校は、昭和47年、婦人会を母体として発足しました。日常生活の中で、「最近、やたらとごみになるものが増えてきた」「子どもを安心して育てられる環境がほしい」など、私たちの身の回りには、困ったこと、改善した方がよいと思うことがたくさんあります。こうした身近な暮らしの中の問題、地域の問題を日常生活と関わり深い女性の立場から、関係する企業や行政、団体と話し合い、学び、実践活動によって解決していく活動グループ、それが土岐市生活学校です。

現在の会員数は市内在住の女性21人で、「限りある資源を大切に」をテーマに、主に廃食油と牛乳パックの回収を実施し、リサイクル業者に引き渡す活動を継続して行っています。ただ活動するのではなく、今の社会がどのような問題と向き合っているのかを学び、地域で何が必要か、何が欠けているかを考え、自分たちのまちづくりの一環として日々活動しています。

土岐市生活学校って？



生活学校が1年間で回収する廃食油と牛乳パックの量は？